



はじめに

－ 経験知の継承 －

新潟中越地震および中越沖地震は、第二次大戦後に農村地域を襲った地震としては我が国で最大級のもので、都市型地震の典型とされた阪神大地震(1995)とは多くの点で異なりました。被災地区は大半が農村で、被害も農業基盤・施設が圧倒的に多かったのです。地震は至る所で道路を寸断したため、孤立した集落は多く、復興過程においても長期の離村を余儀なくされた住民は少なくありませんでした。破損・倒壊した住宅も多く、生産・生活の基盤の喪失は広く深かったのですが、こうした中で農業生産は再開されました。

市町村・県の行政現場は地震発生直後から繁忙を極め、長期に亘って復旧対応に追われました。地震後数ヶ月はほとんど自宅にも帰らず、不眠不休で仕事を続けた職員も多かったのです。職員も被害者として家・家族を抱えていました。仕事の多くは未経験のものでしたが、試行錯誤の中で県内外の支援を得て解決されていきました。こうした中で、従来の災害では予想しなかった課題が多数生じましたが、解決に向けた多用な試みが行われました。今回の経験を元に新しい制度設計に繋がった事項も少なくありません。一方、多くの局面で創造された小さな知恵や工夫は、時間と共に記録にとどめられることもなく忘れ去られようとしています。

本手引きは、中越地震、中越沖地震における震災後の農業農村分野の復旧・復興現場での取り組みの調査をもとに、現場で検討・工夫された、放っておけば忘れられがちな試みや知恵を「経験知」として集約し、まとめたものです。通常の手引きでは、何を？、如何に？が基本ですが、本手引きでは何が？、どんなに？についても取り上げ、部分的には私達の提案も含んでいます。ガイドブックといいながら、こうした構成としたのは、今回の経験で解決できたこと以外に、伝え、今後に委ねなければならないことも多く、これらを含めて引き継ぐ必要があると考えたためです。制度化された個別の事業等については、他資料に譲ることとし、記述は必要範囲に止めました。

本手引きでは、災害に備えて考慮すべき事項について、現場担当者が短時間に要点が把握できることを第一の目的として、簡潔な記述を心がけました。しかし、記述した内容は、未だ不十分さをぬぐえません。これを基礎として項目・内容が充実したものとなっていくことを願っています。

研究会一同
2009年10月



本書の構成と利用の仕方

1. 本書の対象

本書の読者として、主として県・市町村の農業・農村分野の担当者を予定しています。

2. 本書の性格

本書は、「現場で検討・工夫された、放っておけば忘れられがちな新たな試みや知恵を経験知として集約し、まとめる」ことを目的としました。このため、ここでの記述内容は必ずしも一般化し他地域でも活用できるとは限らないのですが、希有の経験であるため、重要と思われる事項を経験知として引き継ぐことは意味あることと考えています。

3. 本書の構成

構成は、計画篇と工種篇としました。計画篇は、初期段階、査定段階、復旧段階とし、災害発生から復旧事業の実施に至る過程において留意すべき事項を拾い出しました。項目は時系列に沿って記述するよう心がけました。各論篇は、農業農村に係わる施設として農地、道路、水路・ため池、農業集落排水施設、コミュニティ施設を取り上げ、技術的取り組みのポイントに絞って記述しました。

各項目は1ページに収めました。災害時等にも必要な項目の要点が短時間に把握できることが、こうしたガイドブックでは大切であると考えたからです。

項目は、一般的事項と参考資料にわけて記述しました。一般的事項には原則的な事項を、参考資料には補足的な説明やティンに類する事項を提示しています。

4. 本書の利用の仕方

本書は、多くの都道府県・市町村で作成されている災害対策マニュアルとは性格が異なります。中越・中越沖地震は多くの教訓を残しましたが、必ずしも一般化できない経験知も本書には留めました。情報によっては地域毎に受け取り方が異なるものもあると思われます。これらの選択は読者にお任せしたいと思います。本書は新潟県の経験をまとめたものですが、今後の防災対策におけるマニュアル作成や防災型の地域形成計画等の基礎的資料や、被災時の補助的参考資料として、有効に活用されることを願っています。

目次は各篇・各章毎に作成し、目的とする事項を見つけやすいようにしました。また、キーワードによる検索も可能であるよう、巻末に索引を設けました。



目次

	頁
はじめに	1
本書の構成と利用の仕方	2
目次	3

第1編 計画	5
--------	---

初期段階	目次	7
	災害対応体制	9
	職員の安全確認・招集	10
	災害対応体制の立ち上げ	15
	マスコミ等来訪者の対策	19
	被害調査および緊急対策	20
	二次災害の防止	21
	被害状況の調査・把握	28
	応急工事	34
	装備・機器	35
	支援・管理の体制	42
	支援職員の確保	42
	支援職員の管理・業務環境	52
	職員の管理	59
査定段階	目次	65
	査定の方針	67
	災害査定の準備	77
	災害査定の実施	85
	査定費用の支援	95
復旧段階	目次	99
	計画的対応	101
	簡便方式の適用による復旧	106
	施工における調整	111
	工程の管理	119
	小規模被害に対する支援	125
	環境対策	131

		頁
第2編	工 種	
農 地		133
道 路		151
水 路	開水路	163
	パイプライン	169
ため池	ため池	183
	養鯉池	194
集落排水施設		207
コミュニティ・集会施設	コミュニティ	223
	集会施設	231
第3編	資 料	
参考資料1		241
平成16年新潟県中越震災災害査定資料作成の手引き		
参考資料2		246
新潟県中越大震災復興基金の事業メニュー		
後書き		254
索 引		255

